

トロンボーンとテナーの美声の 「歌唱力」を初のソロアルバムで問う 倉田 寛

文と写真 | 今泉晃一

神奈川県フィル首席トロンボーン奏者の倉田寛さんが初のソロアルバムをリリースした。タイトル「SPERANZA（スペランツァ）」はイタリア語で「希望」を意味し、40歳の節目に当たってこれから何ができるかという期待も込めて選んだ。アルバムに収録された歌劇「トゥーランドット」のアリア「誰も寝てはならぬ」の歌詞にもある言葉だとか。

その名アリアをまず聴いてみると、歌心たっぷりのトロンボーンソロの後に、朗々たるテナーの歌が耳に飛び込んで来る。これ、倉田さん本人の美声！ 圧倒的な音量と艶やかな歌声はプロのオペラ歌手そのものだ。小学生の頃から歌が好きで、中学時代は吹奏楽と並行して合唱にも親しみ、音楽科の高校では副科の音楽にも熱心に取り組んで来たという倉田さんが、トロ



「SPERANZA」

演奏：倉田寛 (Trib & Tenor)
指揮：大橋晃一
¥2,500 (税込)

【収録曲】ビゼー／カルメンファンタジー (Trib & Tenor)、グラナダ (Tenor)、オ・ソレ・ミオ (Trib & Tenor)、プッチーニ／歌劇《トゥーランドット》より《誰も寝てはならぬ》(Trib & Tenor)、ドニゼッティ／歌劇《連隊の娘》より《トニオのアリア》「友よなんと楽しい日」(Tenor)、ヴェルディ／歌劇《椿姫》より《乾杯の歌》(Trib & Tenor)、ボンセ／エストレリタ (Tenor)、カッチーニ／アヴェ・マリア (Trib & Tenor)、ラーション／トロンボーンと弦楽のためのコンチェルティーノ (Trib)
※CDに関する問い合わせは(株)オレンジノート <http://orangenote-news.at.webry.info/>

ンボーンと「専門外」の歌の双方で存分に歌唱力をアピールするこのアルバムは、発売以来話題を呼んでいる。収録曲はオペラ・アリアを中心とした歌曲が中心で、最後にラーションの《トロンボーンと弦楽のためのコンチェルティーノ》が入れられている。「歌とトロンボーン」の作品集を1作目に構想したのは、「トロンボーンの良い音を広く音楽ファンに理解してもらうチャンスだと思ったから」という。

きっかけは、神奈川県逗子市で活動する金管アンサンブル「なぎさプラスソリスト」のアンコールで、《誰も寝てはならぬ》を歌ったときのお客さんの反応が良かったこと。「返子という地元でのコンサートなので、お客さんもプラスを聴きに来るといふより音楽を聴きに来るといふ意識なんです。だからこそ僕の歌がウケた。それが今回のCDのヒントになりました。」

終わる人間ですから」

アレンジは同じ神奈川県フィルの同僚でホルンの大橋晃一さん（CDでは指揮も担当）。バックのオーケストラは神奈川県フィルのメンバーを中心とした有志で、なんとボランティアで演奏協力してくれたのだという。

CDではトロンボーンと歌が交互に登場し、時には重ね録りによる1人デュエットも聴ける。

「トロンボーンを吹くことと歌うことを分けては考えていません。音楽は思いが8割。学生にもよく、音楽は頭の中にあるもので、楽器は道具。振動する部分が唇か声帯かの違いに過ぎない、と言っていますが、まず思いがあって、それが音になるのです。だから歌で歌えない人は、それを楽器で吹け

るわけがありません」

倉田さんは、歌うことによつてトロンボーンを「無理せず、力を抜いて吹けるようになった」とも言う。

「例えばフォルテ3つとかを見ると、トロンボーン奏者はどうしても必死に吹いてしましますが、歌ではそれほど音量が出るわけはありませんから、結局は曲の中でそれをどう表現するかということになります。ピアノでも同じで、指揮者によつてはものすごく小さな音を要求されますが、それにこだわりすぎず、「作曲家が考えたピアノシモは？」とか「自分が表現したいピアノシモは？」というのを考えた方がよい。そうしたことを（歌を学ぶことで）1歩も2歩も深く考えられるようになりました」

今月の顔
Hiroshi Kurata
orange up

今回のアルバムは、「一つのアンケート」でもあったそうだ。「歌はまだまだ勉強中ですが、聴いて喜んで下さる人がいればもっと歌い

たいですし、同時にトロンボーンオリジナル曲にももっと取り組みたいです。このスタイルならいろんなゲストを入れることもできます。高音の楽器と僕

の歌や、ソプラノと僕のトロンボーンとか、モーツァルト《レクイエム》の《ラッパは高らかに響きわたる》をバリトンと僕がトロンボーンで演奏した

あとに、僕がテノールを歌うことだけでできますよね」
倉田さんのマルチの世界はこれからどんどん拡がりそうだ。



神奈川県フィル首席奏者。東京藝大卒。第2回ナルボンヌ国際金管五重奏コンクール特別賞。第11回日本管打楽器コンクール3位。2004年文化庁派遣留学生としてシカゴに留学。サイトウキネンオーケストラに出演。東京トロンボーンソリスト、なぎさプラスソリストメンバー。



なぎさプラスソリストのコンサートで、ゲストの津堅直弘さんと「乾杯の歌」を得意のテナーで共演する倉田さん。(写真提供：ドルチェ楽器)